



所内 第7回 写真コンクール入選作 「降灰」 地質部 図幅第二課 小野 晃司

降 灰

初冬のくもり日 その暗い空の半ばをさらに暗くおってヨナが降っている 時折りカメラを持つ手にも灰色の細かい灰が降ってくる 活火山として有名な阿蘇山は 現在中岳の火口から火山灰・ガスなどを噴出している この地方では この火山灰のことを「ヨナ」といっている バスやロープウェイで 火口を訪れて火口底をのぞく人は多いのだが そのうちのどれほどの人が 今きた登山道 山麓の町や村 それをとりまく外輪山の急崖 その外側にひろがる広大な原野・・・全体としての阿蘇火山の構成と成長の歴史に関心をもっているだろうか 中岳・高岳などの山群の周囲 外輪山の崖にとりまかれた低地を阿蘇カルデラという。これはその外側の台地をつくるべく大量の火山岩の流出後に陥没した地域で その中にできた小規模の火山群—中央火口丘—の1つがいまも活動している中岳火口なのである

阿蘇は火山地質学の立場からは カルデラ形成前の活動のかたちと噴出物の量 カルデラの大きさなどによって海外にも広く知られている 南北25km 東西17km のカルデラ内には2本の鉄道が走り 10万以上の人が住んでいるが 高冷・多雨・降灰など生活条件はきびしい この写真は阿蘇カルデラ東北隅 一の宮町にて撮影したもので 噴煙の出口は中岳火口 その左の斜面は高岳 左はしは根子岳（いずれも中央火口丘）根子岳下の山脚は カルデラ東縁の突出部 妻子が農である

人 事 異 動

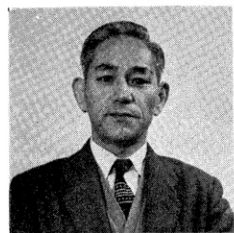
去る7月13日 三田正一技術部長の死去に伴い 次のような人事異動があった

(企画課長)	通商産業技官 小林 勇
地質調査所技術部長に昇任させる	
(燃料部 石油課長)	通商産業技官 井島 信五郎
地質調査所企画課長に配置換する	
昭和36年7月20日	工業技術院



金子徹一 技官

金子 探査課長 イラン国へ
物理探査部金子徹一探査課長は コロンボプランによるウラン調査と測定器についての技術指導のため イラン国へ3カ月の予定で 8月10日羽田から出発した なお 帰国は11月上旬の予定

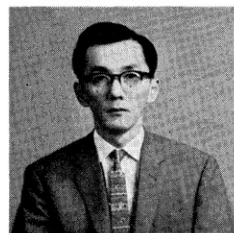


斎藤正次 技官



佐藤光之助 技官

斎藤地質部長と佐藤物理探査部長 ローマへ
斎藤正次地質部長と佐藤光之助物理探査部長は 8月21日から31日まで ローマで開催される国連新エネルギー—資源会議に出席のため 8月18日羽田から出発した なお 会議終了後 佐藤部長は西欧各国の物理探査技術視察のため ソ連・スウェーデン・フランス・西独等を訪問 帰国は 11月中旬の予定



徳永重元 技官

徳永 技官 ハワイへ
燃料部石炭課徳永重元技官は 8月21日から9月2日まで ハワイで開催される第10回太平洋科学会議に出席 生物学会部門植物部会で「北日本における古第三紀炭田の花粉・孢子化石について」講演のため 8月18日羽田から出発した